

標 題 : Effects of a high olive oil diet on the clinical behavior and histopathological features of rat DMBA-induced mammary tumors compared with a high corn oil diet  
ラット DMBA-誘導乳癌の臨床挙動と組織病理学的特徴に対する高オリーブ油食事の影響

---

著 者 : M. Solanas et al. (スペイン)

---

掲 載 誌 : Int J Oncol. 21: 745-753 (2002)

---

要 旨 : ラットにおける DMBA-誘導乳癌の進行(プロモーション)段階における高パーセントオリーブ油食事の影響を高コーン油食事と比較して研究した。

動物をランダムに4群に設定した: 対照、通常脂質の対照食事(3%コーン油)を給餌; M、高コーン油食事(20%)を給餌; O、高オリーブ油食事(3%コーン油 + 17%オリーブ油)を給餌; MO、高コーン油食事の33日後に高オリーブ油食事を給餌。

高コーン油食事は明らかに乳癌を促進し、潜伏期間を減らして腫瘍発症率、多重度と容積を高めた。一方、オリーブ油食事は前群よりも腫瘍発症率を低下させ、対照と同じ潜伏期間で、対照群より低い多重度と容積にした。その上、オリーブ油群で腺癌の組織病理学的特徴は大きい分化度と共存できる。

対照および高コーン油食事と比較して腫瘍が良性の臨床挙動をし、組織病理学的な悪性度が低いので「高パーセントオリーブ油食事は、実験的な乳癌発症の抑制的調節剤として作用する」とこれらのデータが示唆する。

---

コメント :